



『IBBY Honour List 2022』(IBBY 発行)

世界の 子どもの本展

in 小淵沢

2024年 10月13日(日)~21日(月)

開館時間 10時~18時(19日(土)のみ休館)

会場

北杜市 小淵沢図書館

入場無料

特別講演 10月14日(月・祝) 14時~15時半

「オランダの子どもの本の現在」

~世界一子どもが幸せな国から発信する未来へのメッセージ~

講師：野坂悦子(翻訳家・作家)



世界の子どもの本展とは

「子どもの本を通して国際理解を深め、世界に平和を」という理念に基づいて活動するIBBY（International Board on Books for Young People：国際児童図書評議会）が選ぶ世界の優れた絵本・子どもの本を、日本支部であるJBBYが全国の図書館や市民団体に貸し出す巡回展示です。

今回は、53の国と地域から選ばれた47言語、163作品と、国際アンデルセン賞受賞者の作品、合わせて200冊あまりが展示されます。日本語に翻訳されやすい欧米の本だけでなく、ふだんなかなか目にできないアジアや中南米、中近東、アフリカの本を実際に手に取って確かめることができます。子どもの本を通して世界に触れる貴重な機会です。本はすべて原書ですが、日本語の解説パネルがあるため、大人も子どもも楽しめる企画になっています。ぜひおいでください！



10月14日（月・祝）14時～15時半

特別講演 「オランダの子どもの本の現在」

～世界一子どもが幸せな国から発信する未来へのメッセージ～

講師：野坂悦子（入場無料・申し込み不要）

運河やチューリップで知られるオランダは、ユニセフの子ども幸福度調査でも、何度か世界一に輝いている国です。同性婚や安楽死を世界に先駆けて認めた国としても知られ、難民の受け入れや多文化共生の取り組みも進んでいます。そんなオランダの本は『アンネの日記』や、「うさこちゃん（ミッフィー）」シリーズだけではありません。最近ではLGBTQの若者取材したユニークな作品も出ています。子どもたちの幸福を考えて書き続けるオランダの作家たちに出会ってみませんか？長年にわたりオランダの児童書を日本に紹介してきた野坂悦子さんに、オランダの作品や、「世界の子どもの本展」から選んだ作品についてお話しいただきます。



野坂悦子

翻訳家、作家。1989年にオランダ語翻訳者として『レナレナ』（リプロポート、2019年に朔北社より復刊）でデビュー。『おじいちゃんわすれないよ』（金の星社）で産経児童出版文化賞大賞を、『どんぐり喰い』（福音館書店）で日本翻訳家協会/翻訳特別賞を受賞。他に訳書多数。絵本や紙芝居の創作も行い、日本の紙芝居文化を世界に紹介する活動も続けている。

■主催 ハケ岳世界の子どもの本プロジェクト「じゃんぐる・ぷらねっと」
小淵沢図書館

■問合せ 小淵沢図書館（電話：0551-42-1203）
山梨県北杜市小淵沢町7711 生涯学習センターこぶちさわ内
（JR小淵沢駅より徒歩10分。中央道小淵沢ICより車で5分）

この活動は、生活協同組合パルシステム山梨 長野の市民活動助成金および
山梨メセナ協会芸術文化活動助成金を受けています。

パルシステム山梨長野
pal-system



NPO法人
山梨メセナ協会
Association for corporate support
of the wife in Yamanashi

